

令和5年度 瑞浪市子ども発達支援センター運営委員会 会議録 (要旨)

1. 日 時 令和6年1月29日(月) 午後1時30分から午後2時50分まで
2. 場 所 瑞浪市役所本庁舎1階第1会議室
3. 出席者 江畑委員、加藤委員、水野(友)委員、小木曾委員、河村委員、辻田委員
欠席者 水野(浩)委員
事務局 瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと 酒井管理者、小木曾相談員
子育て支援課 藤本課長、有賀係長、井篁
傍聴者 なし

4. 会議録(要旨)

- 1) 開会
- 2) 子育て支援課長あいさつ
- 3) 出席委員数の報告
7名中6名の出席により会議が成立
- 4) 委員自己紹介
- 5) 委員長選出
中京学院大学 准教授 江畑 慎吾 様

6) 委員長あいさつ

委員長 江畑と申します。よろしくお願いいたします。

7) 議事(1)「瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと」について

資料1に基づいて説明

質問、意見なし

議事(2) 令和5年度 活動報告について

資料2に基づいて説明

質疑

委員 親の会としても活動ができた1年だった。受診ができない方たちにとって病院の先生との講和会はよい機会だった。ペアレントトレーニングなどでどう子どもと接していったらよいかかわると安心できる。座談会などの機会を増やしていくとよいのではないか。

委員長 子どもたちの生活の基盤は家庭であるので保護者の不安や悩みを受け止めながら一緒に考えていくとよいのではないか。「ぼけっと」においては、個別の教育を大事にされているが、集団生活が課題のお子さんにおいてはどのような取組をされていますか。

事務局 担当職員がつきながらグループ指導を行って緩やかな集団生活を経験して、園

での生活にも生かしてもらいたい。園の先生とは連携をとっており、情報提供している。活動としてはドッジボールなどルールがあるものをお子さんの発達に合わせて用意している。

- 委員長 支援が必要なのに中断になってしまうケースはどれくらいあるか。
- 事務局 8割は継続だったり通所につながっている。1、2割は途中で相談が途絶えてしまっている。
- 委員長 相談が途切れるのは、いろんな要因が絡んでいるとは思いますが対策はあるか。
- 事務局 学校などに相談が途切れてしまったことを伝えている。

議事（3）令和6年度 活動計画について

資料3に基づいて説明

質疑

- 委員長 アセスメントの組み立てについて行動観察や生育歴、園でのききとりなども大事な要素だと思いますが、発達検査などの数値や客観的なデータを必要とする場合もあり、市では事業を行っているが「ぼけっと」で検討されていることはありますか。
- 事務局 発達検査は資格をもっている職員がおらず、知能検査を市でお願いしているところです。療育手帳の取得や病院での検査で臨床心理士さんの見立てをもとにアセスメントをたてている。発達質問紙を利用して客観的な見立てをたてている。
- 委員長 小学校に行けてないお子さんなどはそこに届かなかったりするので、発達支援センターならばという方もいらっしゃると思うので、行政と連携してすべてのお子さんにセーフティネットをめぐらせられるとよいのではないかと。
- 委員 親の立場として「ぼけっと」と、園と就学に向けての学校連携で、どの教室が1番適しているか判断するのによかった。小学3年生までは放課後等デイサービスを利用できるが4年生以降は相談支援のみしか利用できない。コンスタントに相談できていた環境が遠のいていく感じがする。なにかあったときの気軽に話せる相談先がもう少しあってほしい。保護者の先輩方の話は参考になり、見通しが立てて安心する。児童発達支援で利用されている方はあまり先まで考えていないかもしれないが、小学3年生までしか利用できないということを知っていて欲しい。作業療法など親さんが病院に行かれたりもしているので、市で行うのが本来じゃないかと思う。次の子たちがよりよく使えるように自分も終了してもかかわっていききたい。市をあげて人員など環境づくりをしてほしい。
- 委員長 学年が上がるにつれ人間関係や学習面が困難になっていくため切れ目のない支援が大切だと思う。多職種が総合的に支援をしていくのが今後求められ

る。「ぼけっと」さんならハードルが低く行くことができるという方がいるので地域で市で支えていくかが重要になる。

議事（４）その他

委員 5歳児健診が位置づけられどの市も課題となっている。5歳児健診の目的が早期に療育につなげていくこととされているため、健診後次にどうつないでいくかが課題であり、ぼけっとさんの発達支援の力をお借りしたいと思っている。